

平成25年度 遠隔学習プログラム研修講座 事業報告

I 事業の概要

- 1 趣 旨 遠隔学習による学習機会の提供のあり方及びその専門的な知識・技術等に関する研修を行うことによって、遠隔学習の推進の中核となる指導者の育成と産学官の情報のネットワーク化を図る。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
- 3 期 日 平成25年10月25日（金）
- 4 会 場 道民活動センタービル「かでの2・7」8階 820研修室
- 5 参加対象 (1) 市町村・市町村教育委員会職員
(2) 各種審議会委員、各種指導者（アドバイザー・コーディネーター等）
(3) 民間団体（NPO、社会教育関係団体、まちづくり活動実践者等）関係者
(4) その他（ボランティア活動や地域活動に関心のある方）等
- 6 定 員 30名
- 7 参加状況 59名参加
(うち30名は根室管内生涯学習推進研修会参加者：講座の一部をインターネットで接続して実施)

ブロック	道 央			道 南				道 北			道 東				本庁 道庁 道外
	管内	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	網走	十勝	釧路	
参加数	2	21	1	2	0	1	1	0	0	0	1	0	0	30	0
小 計	24			4				0			31				
合 計	59														

8 日 程

9:30	10:00	10:15	10:30	12:00	13:00	14:30	16:15	16:30
受付	開 会	説 明	基調講義	昼食 休憩	実践発表	演 習	ふり 返り	閉 会

※基調講義と実践発表を根室管内生涯学習推進研修会と合同で実施



(1) 基調講義 テーマ「生涯学習の推進における遠隔学習の可能性

～インターネットを活用した遠隔学習に取り組むために～

[講師] 青山学院大学教育人間科学部 准教授 野末俊比古 氏

主に以下の視点で、社会的背景、全国で取り組まれている実践等を交えながら講義。

- ・遠隔学習が求められる背景とその有効性について
- ・遠隔学習の手法にはどのようなものがあり、どのような特徴があるのか
- ・遠隔学習を有効に取り入れていくにあたってのポイントと課題は何か

<キーワード・ポイント等>

●背景等

- インターネットのイメージは40代以上はパソコン、学生はスマートフォン、タブレット、テレビゲームなど。
- 技術の進展により、かなりいろいろなことができる環境が整ってきた。特にタブレット、スマートフォン登場を契機に大きく変わってきた。今では子どもでも本当に簡単に遠隔でやりとりする環境に入ることができるようになってきている(対戦型のゲームなど)。
- 生涯学習の理念：国民一人一人がその生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が求められている。
- まだまだ学びたくても学べない人がいる中、「いつでも、どこでも、だれでも」の実現に近づいた。
- フェイスブック上でのやりとりが、ちょっとした学びに発展していくことは往々にしてあること。インターネットを活用した交流はそういうことが起きやすい場だと言える。

●事例等

- 大学では授業時間以外にもインターネット上で個人で学習を進めたり、質問したりすることができる環境をつくっている。これがスタンダードな形になっていくと思う。
- 民間会社では、新規採用者に対する新任研修を、インターネット上でのコンテンツで入社日までに終わるところもある。
- 学校での反転学習：学校で教科書の勉強をして家で宿題をやるのではなく、家で教科書の勉強してきて学校でその知識をもとにディスカッションなどをする。集合学習の仕方が変わってきた。
- 遠隔の手法を使うと集合学習の中のグループワークでも、他のグループの様子を知らながら議論を進めていくことができる

●必要性・有効性等

- 学校ではICTを使った授業が普通になってきており、これからの社会はそういう教育を受けた人たちがつくっていく。
- 「経費がかからないから」「多くの人が集まる場所がないから」などは、消極的理由としてある。
- いろいろな都合で1ヶ所に集まれなくても同時に学習に参加できる。
- リアルタイムじゃなくても時間をかけてそれぞれのペースで学習できる。
- 集団でなければできないことは何かを考えることで集合学習の内容が充実し、時間や予算を集中してかけることができる。

●導入のポイント等

- 情報リテラシー：簡単にはなってきたが、機器の使い方を学ぶ必要がある。
- あまり無理せず、必要なことで、かつ、できることを探っていく。
- 遠隔学習を有効に進めて行くには学習支援者の役割をする人が必要かつ重要である。



(2) 実践発表

① 遠隔学習の手法により様々な形の学習機会を提供している実践

北海道立生涯学習推進センター職員

札幌市のイベント（カルチャーナイト）において、沖縄県と北海道をインターネットでつないで子どもたちの交流を実現した取組と、時間や場所に制限されことなくインターネット上で「ほっかいどう学検定ジュニア検定」の練習問題に取り組むことができる仕組みについて紹介。

② インターネット上で学習機会の提供と学習成果の活用の循環を構築している実践

富山インターネット市民塾推進協議会

事務局長 柵 富雄氏

市民講師による自発的な講座の開発と運営を支援するとともに、インターネットを利用して誰もが講座やサークルを開き、受講することができる、いわば「学びのフリーマーケット」の仕組みを構築している富山インターネット市民塾の実践について紹介。（インターネットで富山県と札幌市をつないで発表）

[助言者] 青山学院大学教育人間科学部 准教授 野末俊比古氏

<キーワード・ポイント等>

●道立生涯学習推進センター

- インターネットの活用により、費用をかけずに北海道と沖縄の交流が実現。
- 子どもたちは互いに打ち解けるのが早く、互いにとって珍しいものを紹介したり、クイズを出し合うなどの有意義な交流となった。
- 子どもたちだけでなく保護者もインターネットを活用することの効果を実感。
- 沖縄の担当者も今後の事業での一層の活用を検討している。
- ジュニア検定のweb問題集は、インターネットが利用できる環境であれば、いつでも、どこでも好きな時間に手軽に学習ができる。
- ゲーム機などでインターネットを利用することに慣れている子どもが多く、学習に対する興味関心の高まりも期待できる。
- センターの取組を参加者それぞれの立場で参考にしていきたい。

●富山インターネット市民塾

- 富山県民カレッジの取組のひとつに、一般県民が講師となり講座を自主運営する仕組みである「自遊塾」があり、そのインターネット版としてスタート。
- 富山インターネット市民塾の活動が、「生涯学習プラットホーム」として生涯学習による地域づくりを行う取組のモデルにもなった。
- ポイントは、インターネットによる時間と場所の制約の緩和、市民の誰もが講師、知識交流と実践の場づくり、産学官が協働した運営とそれぞれの資源の共有など。
- 専門的知識よりも経験知を共有する活動が市民塾の魅力。
- イメージはインターネットを活用した「学びのフリーマーケット」。
- 教授型、コミュニティ型など多様なタイプの学びが可能。
- 教えることは最高の学習。「社会に目を向けて学ぶ、社会に役立てる」意識が高まる。
- 近年では、ふるさとの良さや職人の手仕事の大切さなどに関する講座が増えている。
- 働き盛りの参加が多く、シニア世代・県外からの参加も増えている。
- 知の伝承と循環が社会全体の学びとつながりを強め、地域コミュニティを元気にする。
- インターネット上での学び合いの仕組みではあるが、富山インターネット市民塾が大事にしているのは、ひとりひとりの顔が見え、小さな知恵を共有しながら大きく仲間づくりをしていく共生・共創社会。

(3) 演習（進行：北海道立生涯学習推進センター職員）

演習参加者を4グループに分け、基調講義、実践発表の学びをふり返って整理するとともに、参加者それぞれが考える遠隔学習の活用場面等を意見交流し、遠隔学習を取り入れたプログラムを考案。

<各グループのプログラム・アイデア概要>

□グループ1：離れた場所の子どもたちのダンス交流

ダンス交流会の日を設定し、子どもたちが振り付けを練習。交流会当日はインターネットで各地をつないでスクリーンに子どもたちの映像を映しながらダンス。一斉に同じダンスを踊ることにより、離れた場所の子どもたちとの一体感を感じてもらう。

□グループ2：離れた場所での地域の活性化の取組を交流

事業の参加者同士をインターネットでつなぎ、映像をとおして地域をPR。興味・関心が似ているもの同士でSNSのコミュニティをつくり、さらに交流を深めてもらう。地域活性化のアイデアを出し合い、実践の様子を交流する。

□グループ3：ふるさとを離れた人との交流による地域活性化の学習の場づくり

仕事の都合などで地域を出て行った人とふるさとの地域をインターネットでつなぐ。ふるさとからは地域の様子を伝え、出て行った人はふるさとを外から見て気づいたことなどを話し、地域の活性化などに役立てる学習の場をつくる。

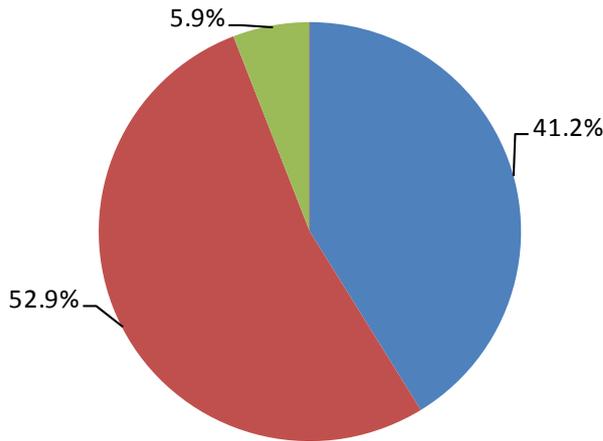
□グループ4：遠隔学習の特徴を生かした親同士のつながりづくり

生活時間帯などが合わず、なかなか家庭教育講座などに参加できない親のために、インターネット上で見ることができるシリーズ化した学習コンテンツを作成。その感想や意見交流などにSNSを活用して親同士のつながりをつくる。



Ⅱ 事業の満足度

(1) 研修全体



回答者数 17名(回収率 58.6%)

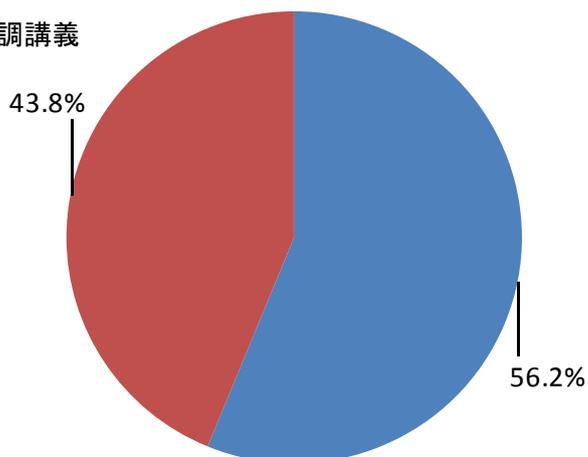
総合満足度：94.1% (大変満足・満足)

- ・ 大変満足：41.2%
- ・ 満足：52.9%
- ・ やや不満：5.9%
- ・ 大いに不満：0.0%

【参加者の主な声】

- 遠隔学習の利便性、柔軟性についてよく理解できたし、実践例がたいへん参考になった。
- 今の学生・若者（社会）の様子がよくわかった。
- 演習が充実していてよかった。
- 面白い取組や考え方を聞き、目から鱗が落ちるようであった。
- 初めてかもしれませんが、音声関係をしっかりしてほしい。富山の発表は満足だった。
- 次年度、本プログラムを「遠隔」で行ってほしい。閉会式のまとめの言葉はもっともで、参加した意義をさらに高められ、確認できた。（「インターネットを身近に感じてほしい」「楽しい意見が出て充実していた」）
- 的を射たお話であった。無理をして難しい内容にせず、基本を大事にしているところがOK。
- 大変素晴らしい講座だったが、講座の目的に少しだけ疑問があった。

(2) 基調講義

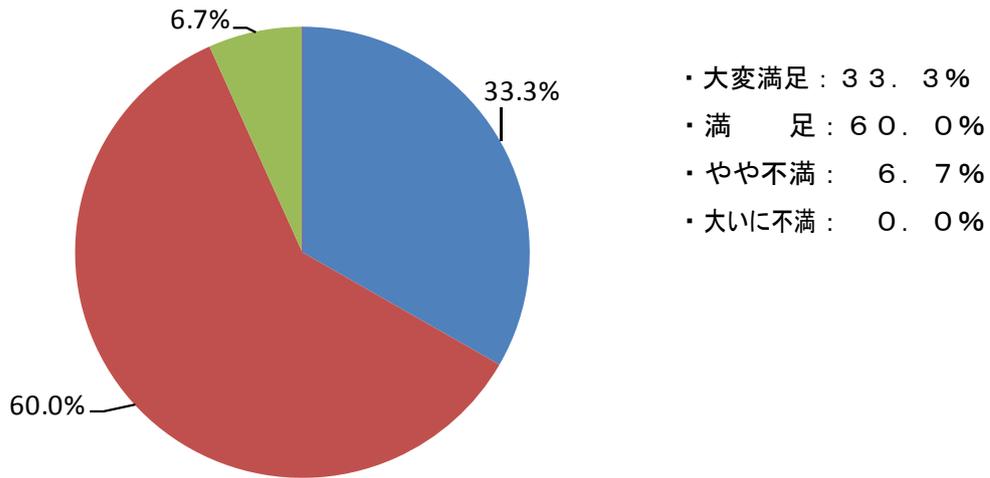


- ・ 大変満足：56.2%
- ・ 満足：43.8%
- ・ やや不満：0.0%
- ・ 大いに不満：0.0%

【参加者の主な声】

- 遠隔学習の利便性、柔軟な運用が可能なのがよく理解できた。
- インターネットに対するハードルが少し低くなった。
- ICTの発展にともない、学校の授業形態もいろいろな変化が感じられるが、同時にそれらを扱う人たちのモラルも必要な場合が多いと思う。

(3) 事例発表

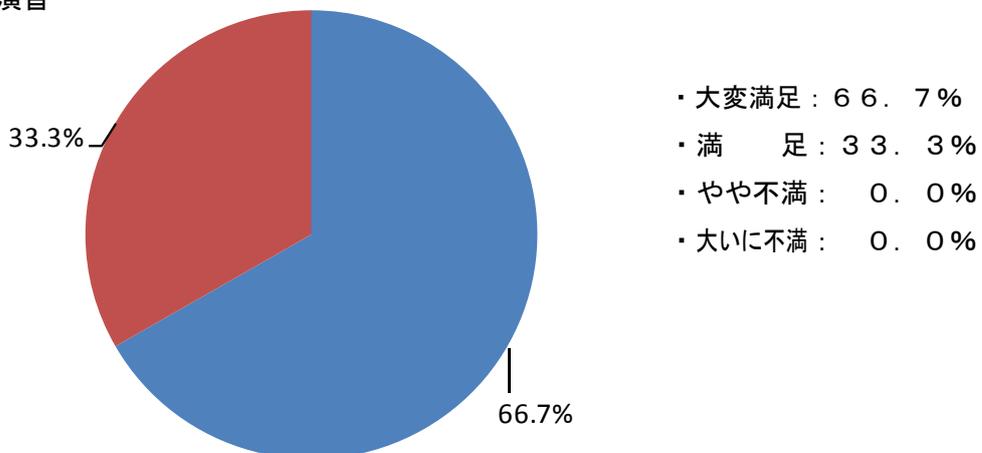


【参加者の主な声】

○富山の例ではいろいろ課題もあるようだが、素晴らしい取組だと実感した。

○内容については良いのですが、遠隔地からの質疑が聞き取れなかった。機械的な問題ではあるが、もっと自然な状態で聴ける環境設定は無理なのか。

(4) 演習



【参加者の主な声】

○アットホームな雰囲気でもとてもよかった。

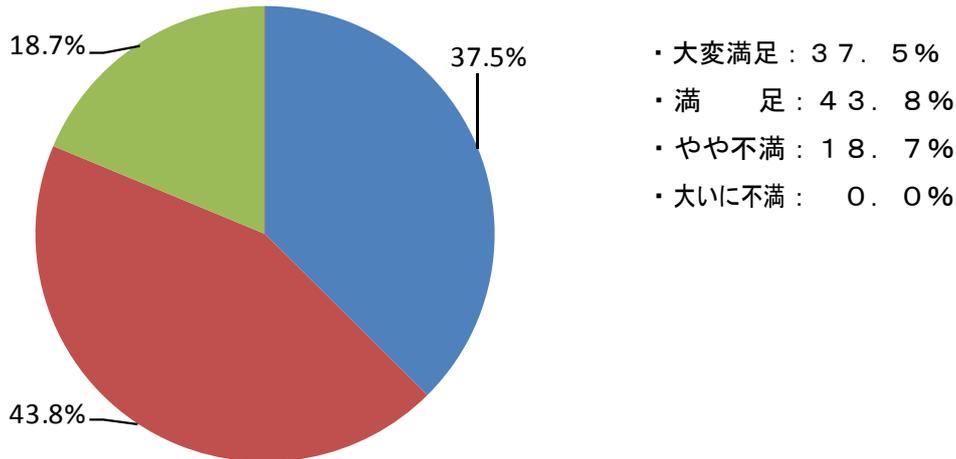
○自主的にいろいろ考えるのは楽しい。時間が足りないと感じた。

○インターネットをいろいろなことに使用できることを学んだ。

○他業種の方々とつながりができてよかった。

○いろいろな発想が新鮮だった。

(5) 講座運営



【参加者の主な声】

- 土日を開講するなど、もっと参加できる時間帯のほうがいいのでは。マイクの調子はよく確認しておくべき。
- NETWORKの接続が悪かったのは残念。それ以外は満足。
- 基本構成はスタンダードでありつつ要点をおさえておりよかった。
- ネット回線を使用する際の具体的な考えられる不具合について、事前にアナウンスしておくといいのでは（音声途切れがちになるなど）
- 野末先生の話が聞きやすく、詳しくない自分でも分かるように話していただけて良かった。

(6) 遠隔学習を推進していくことについて（自由記述）

- 非常に有意義な取組だと思った。機会があったらまた受講してみたい。
- とても有効な手段だと思います。
- 個人個人で見ると、今回のような集合形式で見ることができると良いと思う。
- 中央に集中しがちな講座や研修が離れたところでも受講できる便利さはICTのおかげ。交通や身体の手配があっても受講できるのは嬉しい。
- 現在パソコン学習の指導者をしているが、帰宅したらほとんど忘れていくということなので、スカイプなどを活用して復習を行えば便利と思う。
- 地域とのつながりが大切。パソコンになじめないシニアに対する取組が必要。
- ソフト・ハードともにだれもが簡単に扱えるようにならないと実現は難しいのでは。
- 離れた場所とつながる難しさがあった。
- アイデアしだいで無限の可能性はある。実行すること自体に価値あり。
- しっかり目的とニーズがあれば、積極的に実施した方がいいのではないかと。
- 実際にやってみないと覚えにくいことが多いので、経験を増やす意味でも良いと思う。
- ぜひ推進してはどうかと思う。